

新型コロナウイルス感染症の目に関する Q&A

新型コロナウイルス感染症が世界中で拡大しています。新型コロナウイルスは、新型コロナウイルスに感染した方の咳やくしゃみ、しゃべっているときの唾液（つば）に含まれるウイルスが顔にかかった場合、口や鼻といった上気道の粘膜から感染しますが、目の粘膜（結膜）からウイルスが体の中に入ることによって感染する可能性もあります。目からのウイルス感染にどのように注意したらよいのでしょうか？

Q1 目から感染を防ぐにはどうしたらよいですか？

新型コロナウイルス感染症の基本的な対策は、手洗い（石鹸による十分な手洗い）、あるいはアルコール等で消毒することです。

- 洗っていない手で目をさわらない（他人から自分にウイルスを感染させない）
- 目をさわった後に手を洗わずに、あちらこちらをさわらない（自分から他人にウイルスを感染させない）

ウイルスが付いたテーブルや椅子、パソコンのキーボードなどをさわって、そのまま手で目をこすったりさわったりした場合に、ウイルスに感染する可能性があります。

花粉症の季節などは、かゆさのために思わず目をこすってしまうこともあるかもしれません。目をさわらない・こすらない、手を洗うこと、を心がけましょう。

Q2 コンタクトレンズの使用はどうすればよいのでしょうか？

コンタクトレンズのつけはずしの際は、直接目に触れますので、目に触れる前後に十分な手洗いを行ってください。普段どおりに、コンタクトレンズの消毒やこすり洗いもしっかりと行ってください。心配であれば、しばらくの間、コンタクトレンズから眼鏡の装用に代えても良いでしょう。

Q3 普段から点眼薬をさしている場合、何を注意すればよいのでしょうか。

目薬をさす前後に手洗いを行ってください。他の人と、目薬を共有してはいけません。

Q4 眼鏡やゴーグルを使えば、感染から目を守れるのでしょうか？

眼鏡やゴーグルを装用すれば新型コロナウイルスの飛入を、ある程度は抑えることはできますが、完全ではありません。レンズのない側面や上下の隙間から、ウイルスが侵入する可能性があります。また、眼鏡やゴーグルに触れた手で目をこすってしまうと、かえって感染のリスクを高める可能性もあることに注意してください。

Q5 外出を控えるように言われていますが、眼科を受診しても大丈夫ですか？

当院では、日頃よりウイルス性結膜炎の感染に十分に注意しています。そのため新型コロナウイルス感染症に対しても、医師やスタッフがマスク装着や手指消毒の徹底、診察室の換気など、安全対策を十分に行っております。むしろ、怖がってしまうあまりに受診を控えすぎて、診察を受けるタイミングが遅れることで、いつも使用する目薬が途切れて、病気を悪化させることのないようにしましょう。以下のような症状がある場合、早い対応（適切な時期の対応）を要する可能性がありますのでご相談ください。

1. 急激な視力低下を感じて、数時間～半日たっても戻らない場合
2. 急激な視野異常（視野の一部が欠けるなど）を自覚する場合
3. 充血をともなう目の激痛を自覚する場合
4. 頭痛や吐き気をともなう目の痛みが続く場合

Q6 普段から定期的に眼科に通っているのですが、どうすればよいですか？

症状が変わらない場合やお薬が十分にある場合など、通院の間隔をのばせる場合もあります。必ず医師の指示を仰いでください。特に以下にあてはまる場合は、自己判断は禁物です。

1. 普段とは明らかに見え方が違う場合（視力低下、視野異常など）
2. 緑内障があり、処方点眼液が無くなりそう、あるいは無くなってしまった場合
3. いつもと違う目の痛みが続く場合、充血、痛みが次第に悪化する場合
4. 加齢黄斑変性や糖尿病網膜症のため、数か月ごとに定期的に硝子体注射を受けている場合
5. 手術後、まだ間もない場合

ご来院の際は、事前の体温測定、マスク装着、手洗いの励行など基本的な対策を行ってください。のどの痛みや風邪の症状がある場合は、内科を受診するか、新型コロナウイルス感染症に関する相談窓口にご相談ください。

2020年4月8日

医療法人社団 誠心美会

神谷眼科

TEL : 03-6425-7010